

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 樽谷 直紀
所属 (School) 工学研究科 物質・化学系専攻
学年 (Grade) 博士後期 3 年

留学先 (Name of overseas institution)
アルゼンチン サンマルティン大学
留学期間 (study abroad period)
40 日間

記入日 (Date) 2017 年 1 月 20 日

留学レポート Study Abroad Report

私は工学研究科の博士後期課程に在籍するものです。この度、アルゼンチンのサンマルティン大学にて 40 日間の短期留学を行いましたので、それについて報告します。

留学の経緯

アルゼンチンへの留学機会が得られたそもそもの発端は、今回の滞在先の先生が私の所属する研究室に滞在したことにさかのぼります。その先生が日本で 1 か月滞在の間、研究をはじめとし様々な場面で交流を重ね、留学受け入れを快諾していただきました。2015 年 3 月から 1 年間研究留学をしまして、さらに交流を深めるという形で今回の留学に至りました。私の研究室では、これまでも海外研究者を招聘して交流をしていたという利点はありましたが、自らが積極的に関わっていくことで留学のチャンスを得ることができたと感じました。留学を考えている方は、そういった点も踏まえて行動してみてもと思います。

留学準備

留学することが決まってまず行ったのは、滞在先の確保でした。私が滞在したのはアルゼンチンの首都であるブエノスアイレスでしたが、場所によっては治安が悪いという話を聞いたので現地在住の方にコンタクトを取り、アドバイスをいただきました。また、アルゼンチンの歴史や文化、言語、観光地などを調べました。これらは、現地の方とコミュニケーションをとる際に非常に役立ちました。特に現地で使われているスラングを覚えていくと、すぐに仲良くなれるのでお勧めです！

現地での生活 (1) 研究

私は研究を目的として留学をしたので、平日は大学へ通っていました。ブエノスアイレス市ではバス網が発達していて、24 時間どこへでも行くことができます。実際に私の場合は、サンマルティン大学、ブエノスアイレス大学、原子力研究機関の 3 か所を行き来して実験を進めていました。普段は、朝の 8 時頃から夕方 19 時頃まで研究し、週末前の金曜日にはミーティングをして進捗状況を報告していました。短い期間でしたので、事前に留学先と密に連絡を取り、どのような施設・技術が使えるのかについて検討し、計画的に実験を進めました。

研究においては英語のコミュニケーションが主でした。私自身は流暢とはいかないまでも、英会話ができていましたが、英語を使わなければならない環境に身を置くことで、よりレベルアップできたと感じました。またアルゼンチンの公用語はスペイン語でして、発音がほとんどローマ字と同じなので、英語の癖が日本人に似ており、あまり壁を感じることなく英語で会話できました。

ブエノスアイレスはラプラタ川に面していますが、写真のように大学の実験室からそれを一望でき、外に出れば風も気持ちよいので、実験中の気分転換には困りませんでした。心なしか日本の学生よりもリラックスして実験をしているように見えました。



現地での生活（2）日常

食生活については、昼は学食、朝夕は自炊していました。アルゼンチンは世界で1, 2を争うほど牛肉の生産・消費量が多く、実際に肉と名の付くものは牛肉がほとんどで豚肉・鶏肉はマイナーでした。郷に入っては郷に従え、ということで私も週に4日は牛ステーキを食べていました。アルゼンチン牛は、味はもちろんのこと脂身が少ないのでぽんぽん食べることが出来ます。それ以外にもエンパナーダスというパン（餃子のように中に具が入っていて様々な種類があります）やロクロというシチューなど有名な料理ですが、全体的に質が高く、食べる物のストレスは全く感じませんでした。同年代の学生・研究者が多かったこともあり、頻りに飲み会がありました。ただアルゼンチンでは夕飯の時間が遅く、開始が9時頃、お開きになるのが深夜2時ごろということが多かったのは、大きな違いでした。それほど遅くなっても次の日にはきちんと働くバイタリティには驚かされました。また週末にはアサドと呼ばれるアルゼンチン式のバーベキューをし、昼から夜までゆっくりと肉を焼きながらビール、ワインを飲んで友達と話していました。食事は生活の中で大きなウェイトを占めますので、その点に関しては自分に合ったものをできるだけ早く見つけることが重要だと思います。



アサドの準備をしている写真です

現地での生活（3）観光

アルゼンチンに関連したニュースでは物騒なものも聞かれますが、基本的には非常に親切な国民性であると感じました。大学関係の方はもとより、街中で出会う人も親切に接してくれ、こちらがスペイン語を話せなくとも何とか理解しようとしてくれます（もちろん悪意をもって近づいてくる人もいるのでその用心は必要ですが）。スーパーやレストランで困った状況になったときに、様々な人に助けられたことをよく覚えています。観光地でもそれは同様で、皆親切に対応してくれました。ブエノスアイレス市内には多くの観光地が散在しており、大学に出入りできない週末は市内の散策をすることが多かったです。このようなタイミングで、普段は接する機会が少ない現地の方と会話できることが多く、異文化交流という面から考えると、非常に有意義であったと感じています。

留学を考えている方へ

少しでも留学に興味がある方は、是非ともチャレンジしていただければと思います。学生の間は時間の融通が利きますし、大学の提供する制度を利用することもできるので、社会人になってから実行するよりも敷居が低いのではないかと思います。ただし、留学生はお客さんではないので懇切丁寧に誰かがお世話をしてくれる訳ではないですし、言語・文化の違いからストレスを感じることも少なくありません。このような点を乗り越える強い意志、いい意味での凶太さを持って、積極的に交流を重ねれば留学期間を実のあるものにできると思いますので、熟慮断行していただければと思います。